

平成31年度 白石町立福富小学校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
ふるさと福富を愛し、誇れる子どもの育成 ～「考える 思いやる きたえる」子ども～	1 学力の定着 2 仲間意識の向上 3 挨拶・返事の徹底

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価					
① 児童の思考力・表現力を高め、基礎基本の確実な定着を目指す。					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)
教育活動	●学力の向上	基礎基本の定着	・CRTでの評定1の割合を30年度よりも減らす。 ・学習課題を明確化し、分かる授業を目指す。 ・児童の家庭学習の取組率を90%以上にする。	・朝の時間(ドリルタイム)の充実を図るため、速読集を購入し、取組ませる。読み、書き、計算を継続して行う。 ・西部型授業を行う。 ・児童の習熟度把握のため基礎学力テスト、検定テストを実施し形成的評価を充実させ、再テストを行うなど個別指導に生かす。 ・通級指導、TT指導の打ち合わせを事前にし、計画的に個別支援を行う。 ・「家庭学習1・2・3」を配布して、保護者に啓発する。 ・保護者に学習状況を説明し、家庭学習への取組の協力をお願いする機会を増やす。	学びづくり部
			(図書館教育) ・学習センターとして、調べ学習ができる環境作りを行う。 ・一人あたりの図書貸出数低学年「150冊」中学年「120冊」高学年「100冊」を目指し、読書習慣の確立を目指す。	・家読の充実のために、家庭との連携を行う。 ・調べ学習に適した書物の充実と図書館の環境整備を実施する。 ・全校読書、読み聞かせの充実を図る。 ・創意ある委員会活動を工夫実践する。 ・「本を読みたい、本を借りたい」図書館の環境作りを行う。 ・朝読書の習慣化を図り、親書の心を育む。	学びづくり部
	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	ICTを利活用した授業の充実	・ICT機器を使った授業を実践することで児童の興味・関心を高め、理解力や表現力の育成につなげる。 ・教職員のタブレットPC利用のスキル向上を目指して、年間5回以上のタブレットPCを活用した授業を行う。	・ICT機器を利用し、児童の実態に即した教材や資料を準備したり、教材提示の仕方を工夫したりする。 ・ICT利活用を行った授業を授業参観で公開する。 ・タブレットPCを活用する教科や単元を明確にし、計画的に実施する。タブレットが来る週には、授業で活用するようにする。	学びづくり部
② お互いのよさを認め合い、互いに学び合いながら、仲間意識を育てる教育活動の推進を目指す。					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)
教育活動	●いじめの問題への対応	いじめを起こさない教育環境の整備	・教育相談、道徳教育、人権・同和教育及び生徒指導等との連携を図りながら、いじめを起こさない、いじめを許さない教育環境の整備をする。 ・いじめ防止基本方針に基づき、覚知から認知、さらに解決に導くための組織的な対応の具体化を図る。	・定期的に(2ヶ月ごとに)「こころのお天気」アンケートを児童に実施する。気になることについては担任による教育相談を行い、必要に応じて支援会議を開き、具体的対策を講じる。 ・「気になる子」に関わる情報交換を毎週水曜日に行う。 ・Q-Uアンケートを実施し、結果分析を行い個々の支援に活用する。 ・特別支援・通級についての啓発活動を学級ごとに1学期と2学期に1回ずつ行い、継続的な指導を行う。	心づくり部
	●心の教育	道徳教育の充実	・豊かな心と道徳的実践力の向上を目指す。 ・道徳教育の充実を図るため、授業公開を年間計画に位置づける。	・学級の実態に応じた道徳の時間の充実を図るとともに、保護者や地域の方に、年1回は「ふれあい道徳」の授業を公開する。その際、授業のねらいや計画を事前に配布し、啓発を図る。また、授業の様子を学校ホームページに掲載する。 ・ワークシートや年間指導計画を活用し、家庭や各教科との関連を図る。 ・授業で使ったプリント等のポータルオを行う。また、資料等については、道徳用の棚を用意し、いつでも活用できるようにする。 ・「考え・議論する道徳」の学習を重ねることで、お互いの考えを認め、学び合う経験を積ませる。	心づくり部
	○人権・同和教育	人権学習の充実	・計画的な人権学習の充実を図り、一人一人を大切に作る集団づくりに努める。 ・人権・同和教育の内容を地域や保護者に伝える。	・8月に平和集会、12月に人権集会を開く。それぞれの集会前後には、平和や人権に関する授業を実施することで、平和や人権を尊重する態度を育てる。 ・集会後には、「平和学習だより」「人権学習だより」を発行し、保護者、地域の方に集会の内容や児童の感想などを知らせる。また、学校ホームページにや学級通信に掲載し、保護者への啓発も図る。 ・職員の意識を高めるため、人権や同和教育に関する職員研修を実施する。 ・地区同研提案の「一人1レポート」の実践に全員が取り組み、実践交流を行う。	心づくり部
	○特別支援教育	特別支援教育の充実	・課題と対策を明確にし、個に応じた支援のあり方を考え実行する。	・子どもを知る会やケース会議を行い児童の実態や支援について共通理解をする。必要に応じて外部機関(医療・福祉)との連携を図り助言をしてもらう。 ・チームで支援を行うための校内支援体制を確立する。 ・「個別の指導計画」に合理的配慮事項を明記し、それに基づいた支援を行う。 ・発達障害に関する研修や啓発を行い、理解を深め支援に役立てる。	心づくり部

③ 自分の健康や体に関心を持ち, 規則正しい生活習慣の定着を目指す。					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)
学校運営	○危機管理・安全教育	安全な教育環境の整備	・保護者, 地域の方々, 関係団体との連携による安全教育の実施。 ・様々な危機に対応するマニュアルの整備。 ・安全点検の充実。	・保護者からの事前情報や事実を把握し, 学校の実態に応じた危機管理マニュアルの見直し, 作成を行う。 ・体験活動, 訓練等を通して様々な危険予測および危機に対応できるようする。 ・月1回の安全点検の徹底。安全点検に挙がってきた内容については, 早めに改善を進めていく。また, 計画的に改善計画を立てていく。	体づくり部
教育活動	●健康・体づくり	健康で規則正しい生活の習慣化	・元気な挨拶ができる児童を目指し, 挨拶運動や日常の挨拶指導を充実させる。 ・手洗い・うがい・歯磨きの励行を図る。 ・早寝, 早起き, 朝ご飯の推進を行う。	・朝の挨拶運動を定期的に行う。 ・日常的な挨拶の励行を学校が一体となって行うとともに家庭にも呼びかける。 ・家庭, 学校での歯磨きの状況の把握及び保護者への啓発をしていく。 ・給食後の歯磨き指導の徹底を図る。	体づくり部
		体づくりの推進	・外遊びの推進をする。 (体育委員会との連携) ・体力向上に努める習慣を確立させる。 ・マラソン大会やがんばるマラソン週間を設定し, 体力向上や健康な体づくり意識を向上させる。	・体育委員会による各種スポーツ会への参加を呼びかける。 ・スポーツチャレンジへの参加等屋外で元気に遊ぶよう声かけを行う。 ・学級活動や給食の時間を通して正しい食事のマナーや望ましい食習慣について学校栄養職員と連携して指導する。 ・がんばるマラソンの励行, がんばりカードを作成し, 目標をもって体づくりに取り組ませる。	体づくり部
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える児童を80%以上にする。	・全ての教科等, 学校行事等を通して, 夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設け, 自分の夢, 目標を持つことができるようにする。	教務部
学校運営	○地域に開かれた学校づくり	コミュニティ・スクールの実践	・小中合同による学校運営協議会を年4回開催し, 会議の充実とともに小中合同の取組を通して連携を深める。	・学校運営協議会では, 学校経営方針等理解を得て, 地域連携団体との体験活動等を計画的に進めていく。 ・児童の学習や生活の様子を伝えるため, 毎月学校便りやCS通信を発行し, 地域でも回覧してもらう。 ・人材バンクを更新し, 連絡先, 連絡方法等を明確にする。	コミュニティ担当
		家庭, 地域との連携 学校からの情報発信	・児童の学習状況や生活の様子を保護者, 地域に公開し伝える。 ・地域との連携を深め, 体験活動等を通して, ふるさと福富のよさに触れる。	・PTA総会, PTA役員会, 保護者会等で児童の学校での様子(学習面, 生活面)を随時報告をし, 諸行事, 活動への協力を早めに依頼する。 ・学校行事については, より多くの保護者や地域の方々に来校してもらうために, 参加しやすい時間帯, 内容を考えながら早めに通知するなど工夫する。 ・ホームページの内容を確認し, 2週間毎に更新する。	コミュニティ担当
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進	・各分掌間の連携及び情報共有を図り, 効率的な業務への取組を推進するとともに, 教職員の時間外勤務について1か月当たり前年度比5%削減する。	・連絡事項については, SEI-Netの学校フォーラムを使用し情報共有を行うことで, 会議の時間短縮に努める。1日1回フォーラムに目を通すよう声かけを行う。 ・定時退勤日(金曜日)を設定し, 実行する。タイムカード等で退勤時間を確認し, 定時退勤できなかった場合は, 別日に定時退勤を行うよう呼びかけを行う。 ・各教職員の勤務時間を確実に把握するとともに, 特定の教職員に業務が集中しないようにマネジメントを行う。	教務部

●は共通評価項目のうち必須項目，○は独自評価項目